

V. 産 業

1. 産業3部門別就業者の推移 ~~~~ 低下が続く第1次産業 ~~~~

就業者1,241,868人の産業3部門別構成をみると、第1次産業が264,923人、第2次産業が410,579人、第3次産業が565,421人でそれぞれ就業者総数の21.3%、33.1%、45.5%の割合となっている。

産業別構成の推移をみると、第1次産業は、昭和25年に70.0%を占めていたが、その後急速に減少し、35年には56.4%、45年37.0%、55年21.6%と縮少している。

第2次産業部門は高度成長期に著しい伸びをみせ、就業者の割合は昭和35年の17.3%から、45年28.4%へ拡大した。その後石油ショックによる経済の安定成長へと転換したが50年31.5%、55年32.8%と増加している。

第3次産業部門は、昭和35年26.3%、45年34.6%で、50年に第1次産業部門を超え55年45.5%と半数に近づいている。

図8 産業(3部門)別就業者の推移
(大正9年~昭和55年)

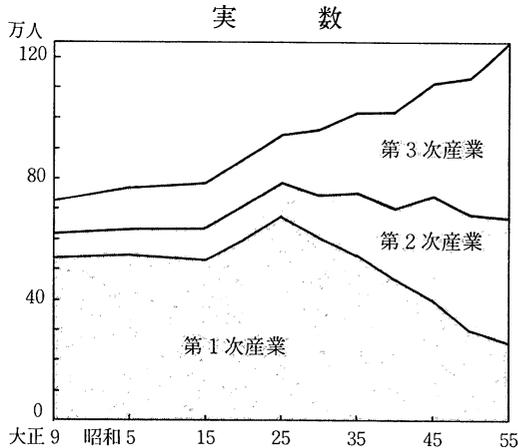
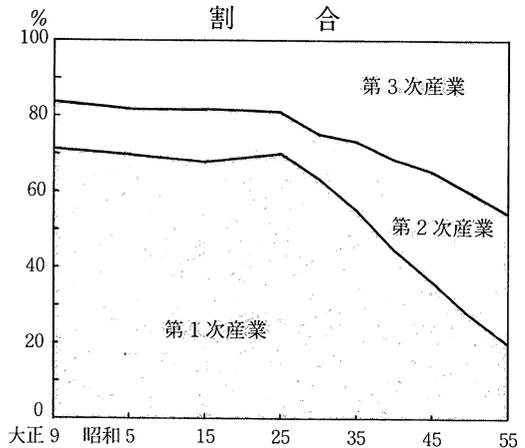


図9 産業(3部門)別就業者の推移
(大正9年~昭和55年)



2. 地域別3部門別就業者の比較 ~~~~ 県北平担第3次産業の割合51.9% ~~~~

地域別に産業3部門別構成をみると第1次産業の割合は、鹿行が31.2%と最も高く次いで県北山間、県西が県平均の21.3%を上回っているのに対し、県北平担、県南が下回り、特に県北平担は13.4%と県平均を大きく下回っている。

第2次産業の割合は、県西が37.2%で最も高く、次いで県北山間、県北平担が県平均の33.1%を上回り、一方県南、鹿行は下回っている。

第3次産業の割合は、県北平担が51.9%、県南50.2%と県平均45.5%を大きく上回っているが、県北山間、県西、鹿行は下回っている。

図10 産業別就業者の推移

(昭和35年～55年)

